

# あか牛

76



あか牛の親子放牧（熊本県阿蘇郡南阿蘇村）

2008.1

社団法人 日本あか牛登録協会

# あ か 牛

(第76号)

---

## 目 次

巻頭のごあいさつ .....	会長 滝本勇治	2
飼料イネサイレージ給与が褐毛和種去勢牛の産肉性に及ぼす影響 .....	熊本県農業研究センター畜産研究所 守田 智	4
放牧・粗飼料多給による阿蘇のあか牛一貫生産	会長 滝本勇治	11
生産者と消費者の交流イベント 「あか牛がつなぐふれあいフェスタ in 中央」 .....	熊本県畜産協会 川崎広通	22
会 報 .....		30

# あか牛の底力を世に問う時が来た

日本あか牛登録協会 会長 滝本勇治

皆さん、お元気で希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。

昨年6月22日の「平成19年度通常総会」で、續省三会長が勇退され、その後任に就くことになり、合わせて本会誌の後述にあります役員改選が行なわれました。穴見副会長、中川利美常務理事及び各支部ならびに理事会推薦の各理事並びに監事の方々と鋭意協議して、会の運営、事業の推進に邁進する所存であります。日本あか牛登録協会の再出発については本会誌74号 2005年9月に續前会長が述べている通りで、変更はありません。会員の皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

さて、世界的に飼料用穀物の原料相場が高騰し、海上運賃の暴騰とあいまって飼料価格は近年にない上昇を続けています。飼料だけでなく、あらゆる資材の価格が上がってきています。また、子牛の人工哺乳用脱脂粉乳もこの一年で一挙に価格が5割ほど上昇し、和牛繁殖農家の経営を悪化させ、とくに、国が進めている肉用牛増頭計画で大規模化した農家を直撃しています。飼料原料価格の高騰原因は一部オーストラリアでの連年の干ばつなどの影響による供給不足もないではないが、バイオ燃料需要と中国などの急激な需要増や穀物市場への投機的な資金の流入もあって価格上昇に向かっているだけに、長期的にみても問題解決は難しいとみられています。もはや、海外からの安価な飼料を大量に与えての和牛生産は終焉を迎えることになりましょう。

一方、消費者は安全・安心が必須の国産の牛肉に志向が進んできました。そして、売上の中心は値ごろ感のある和牛肉と言うことで、3等級、2等級が主役となりつつあります。なかでも健康志向が強い消費者には機能性を喧伝することも重要となってきました。あか牛は、上述の消費者が望む肉質を十分に満足させて、飼料用穀物高を克服する自給良質粗飼料多給によって健康機能性リッチで低コストな肉生産を可能とする品種として、その真価を世に問う時代がきたものと思えます。具体的にはあか牛において、付加価値の高い高品質赤身肉（食味・呈味成分、健康機能性成分、草由来の移行有効成分の三つを豊富に含む）を追求することになります。

あか牛の品種の特性は、体質強健で、性質がおとなしく、飼い易い。草の利用性に富み、特に放牧に適している。繁殖能力が高く、泌乳量が多く、子牛の発育がよい。肉牛として仕上がりが早く、肉量多く、肉質もよいなどを再確認しましょう。この特性は最近の農政で推奨している「飼料増産」、「国土・環境の保全」に合致するもので、あか牛に対する期待はさらに大きく、自給粗飼料多給、放牧飼養など国内資

源を最大限に活用した畜産物の消費拡大と消費者啓発は極めて重要となってきました。放牧適性、飼料利用効率や子育ての良い母牛などの特性を更に強化する改良に重点を置き、あか牛特有の飼い方と前述の遺伝的特性をマッチさせることが、あか牛振興の要となりましょう。

あか牛の飼養頭数や登録頭数は減少傾向が続いていますが、熊本県をはじめ関係各道県の農業・畜産団体の努力により、増頭化が図られています。肥育農家が繁殖を、繁殖農家が肥育を、それぞれ経営内に取り込んでの一貫生産もみられます。また、草地畜産地帯では公共草地を再編し、100頭規模の大規模あか牛繁殖牧場の進展もみられます。さらに国際的に人気が高まってきた「和牛肉」を輸出戦略の重要な品目としてブランド化が推進されていますが、あか牛もその中の一つとして、その特性、優位性について、国内外の顧客に情報を発信し、大方の理解を得ることも必要でしょう。私どもあか牛関係者は、他の畜産部門や農業部門と連携し、さらには他産業一般と関連して、複眼的な視野を持ってあか牛振興に取り組むことが必要になってきました。

さて、平成14年～18年のあか牛16000頭の現場枝肉成績によると、去勢と雌でそれぞれ、出荷月齢25.1ヶ月、25.4ヶ月、と殺前体重712.4kg、634.1kg、枝肉重量458.4kg、410.3kg、ロース芯面積50.7c㎡、48.3c㎡、バラ厚7.4cm、7.2cm、肉質等級2.97、2.80で私どもはあか牛の枝肉重量、肉質等は明らかに向上してきたとの感を深くしました。昨年11月に実施された熊本での平成19年度あか牛研究会及び北海道あか牛枝肉共励会での枝肉評価はともに上述の成果を如実に示していました。とくに、種雄牛の産肉性に関する優れた系統群による前進と基礎雌牛の選定で、体型だけでなく産肉性や系統などを考慮した交配・組合わせが効を奏したものです。これは、ひとえに関係各位のご努力によるものと、深く敬意表するしだいです。熊本県下であか牛の肉を販売している店舗は130店あるとのこと。地産地消の進展がみられ、他の産地でも普及することが望まれます。

先に述べたように、あか牛は粗飼料の利用性が高く、生産の合理化が図りやすい有利性があります。繰り返しになりますが、あか牛の品種の特徴、特性、弱点、魅力を正確に理解し、徹底することと消費者のニーズをよく理解し、正しくその心をつかんで、しっかり満足感を売ることが肝要です。これらを組織化し、具体化を図ることがあか牛振興につながります。

登録協会といたしましては、改良の基本となる登録事業の強化に努力しますとともに、諸問題の解決に生産者団体と一体となって生産振興に取り組んでまいります。会員の皆様や関係者の皆様のご理解とご協力によって、さらなるご支援をお願いいたします。

# 褐毛和種の乾燥豆乳粕及び飼料イネホールクロップサイレージを用いた高品質牛肉生産

熊本県農業研究センター畜産研究所 守田 智

## 1 はじめに

食料自給率の向上には畜産分野における飼料自給率の向上が不可欠であり、遊休農地等を活かした飼料生産の拡大が重要課題となっている。また、資源循環型農業の構築に向け、食品製造に伴う副産物の再利用の推進が図られ、飼料化に向けた試験が数多く行われている。

九州での飼料イネの作付面積は全国の約半分を占め、その中で熊本県は最も大きく、しかもそのうちの大半はホールクロップサイレージとして調製されている。しかし、飼料イネホールクロップサイレージ（以下、「飼料イネWCS」という）の利用は酪農と肉用牛繁殖における利用がほとんどであり、肉用牛肥育における利用は進んでいないのが現状である。これは、肉用牛肥育においては、血中ビタミンA濃度が脂肪交雑に影響することから、ビタミンAの前駆物質であるカロテンを含む飼料の給与について肥育農家が慎重になっていることによると考えられる。

濃厚飼料を多給する慣行の褐毛和種肥育牛では、脂肪交雑は14ヵ月齢から18ヵ月齢にかけて急速に増加し、その後は緩やかな増加になることが認められている。つまり、肉質（脂肪交雑）向上をねらった肥育を行うには肥育中期の飼養管理が重要であり、飼料イネWCSを給与する際にも肥育中期を避ければ、肉質向上を目的とした肥育は可能であると考えられる。

また、食品製造に伴う副産物である乾燥豆乳粕（以下「豆乳粕」という）は、水分含量が少ないので取扱いが容易であり、しかも、高タンパク、高エネルギーであるため、肥育牛の増体や脂肪交雑向上に期待ができると考えられる。

そこで、ビタミンAを制御する現在の肥育体系において、飼料イネWCSを給与する中で、豆乳粕の給与時期の違いが褐毛和種去勢牛の肥育成績に与える影響を明らかにし、同飼料を活用した肥育飼養技術を開発したので、その概要について紹介する。

## 2 材料および方法

供試牛は、褐毛和種去勢牛9頭であり、表1に示すように、「全期利用区」

と「後期利用区」を設け、それぞれに5頭と4頭を配置した。肥育期間を肥育前期、肥育中期および肥育後期に分け、それぞれを4.5ヵ月間、7ヵ月間、3ヵ月間とした。

表1 試験区分

区	頭数	給与飼料(上段:濃厚飼料、下段:粗飼料)		
		前期(4.5ヵ月間)	中期(7ヵ月間)	後期(3ヵ月間)
全期利用区	5	豆乳粕混合A	豆乳粕混合B	
		飼料イネWCS	稲ワラ	飼料イネWCS
後期利用区	4	配合飼料A	配合飼料B	豆乳粕混合B
		飼料イネWCS	稲ワラ	飼料イネWCS

「全期利用区」は、肥育前期には配合飼料A、豆乳粕およびふすまを混合した濃厚飼料(以下、「豆乳粕混合A」という)を、肥育中期と肥育後期には配合飼料Bと豆乳粕を混合した濃厚飼料(以下、「豆乳粕混合B」という)を給与した区である。「後期利用区」は、肥育前期と肥育中期には配合飼料Bを、肥育後期には豆乳粕混合Bを給与した区である。

なお、粗飼料として両区とも、肥育前期と肥育後期には飼料イネWCSを、肥育中期には稲ワラを給与した。

給与飼料の成分については表2に示したとおりである。

表2 給与飼料の概要

飼料名	TDN	CP	備考
豆乳粕混合A	72.4%	18.1%	配合飼料A + ふすま + 豆乳粕 (63.8%) (23.5%) (12.7%)
豆乳粕混合B	約76%	約14%	配合飼料B + 豆乳粕 (89~91%) (9~11%)
配合飼料A	71.5%	15.5%	
配合飼料B	74.0%	11.5%	
豆乳粕	92.7%	35.8%	
飼料イネWCS	20.7%	2.4%	所内分析値
稲ワラ	37.6%	4.7%	日本標準飼料成分表2001年版

豆乳粕混合Aは、配合飼料A 63.8%、ふすま 23.5%、豆乳粕 12.7%の割合で攪拌機にて混合して製造した。豆乳粕混合Bは、給与時に配合飼料B:豆乳粕 = 89~91:11~9の割合で給与者が手作業により混合した。

調査項目は、体重、飼料摂取量、枝肉成績であった。

### 3 結果および考察

#### (1) 体重と1日当たり増体量 (DG)

体重とDGについて図1に示した。

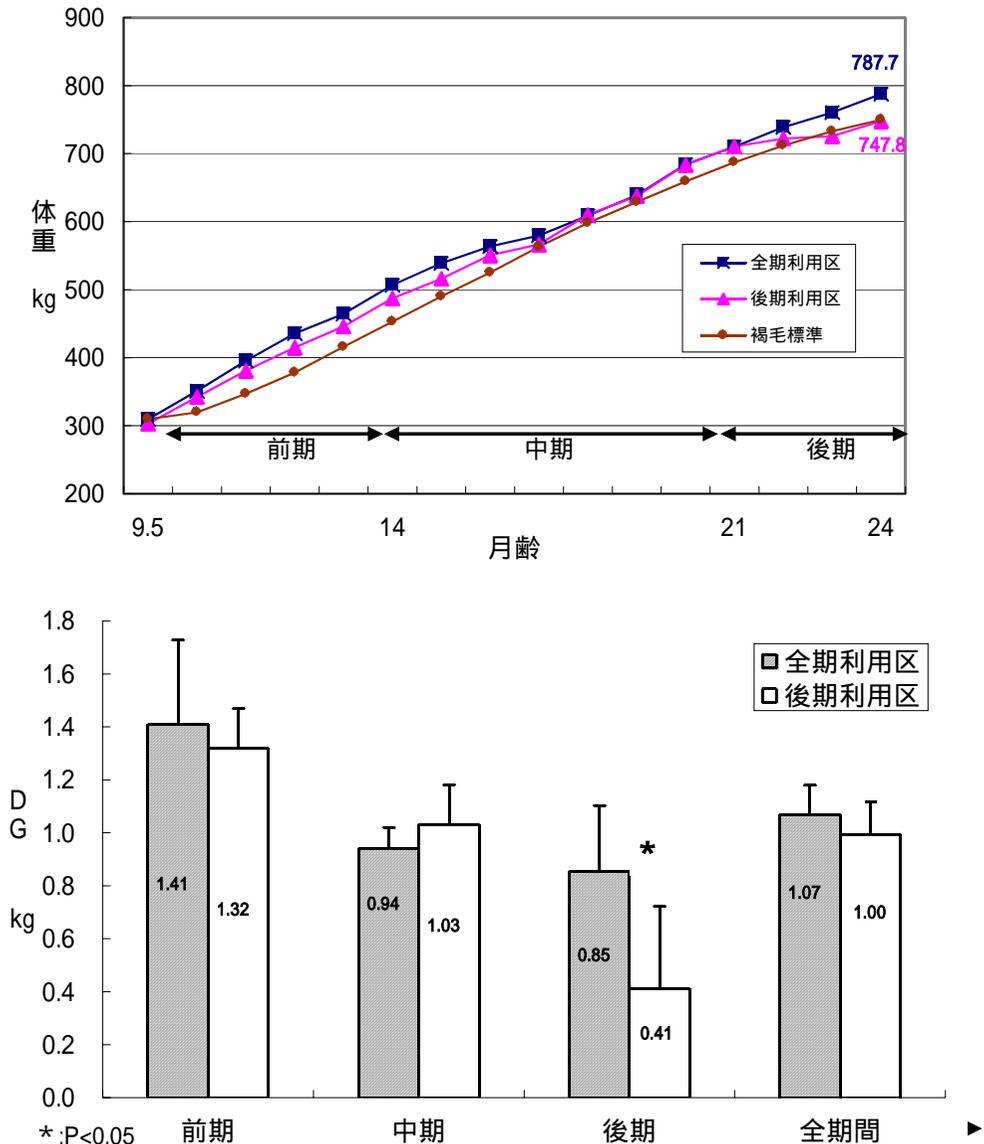


図1 体重と1日当たり増体量

試験開始時および終了時の月齢は、両区ともほぼ 9.5 カ月齢および 24 カ月

齢であった。

体重は、試験開始時において「全期利用区」309.6kg、「後期利用区」302.8kg、前期終了時においてそれぞれ 506.8kg、487.4kg、中期終了時においてそれぞれ 710.0kg、710.3kg と、両区とも肥育中期までは同じような推移を示した。また、DGについては、前期において「全期利用区」1.41kg、「後期利用区」1.32kg と両区に有意な差もなく非常に良好で、中期において「全期利用区」0.94kg、「後期利用区」1.03kg とこの期間でも両区には有意な差はなかった。

しかし、肥育後期になって「後期利用区」の増体が鈍化し、試験終了時の体重は「全期利用区」787.7kg、「後期利用区」747.8kg となり、肥育後期のDGでは「全期利用区」の 0.85kg に対して「後期利用区」は 0.41kg と半分以下の値であり、5%水準で有意差が認められた。

なお、肥育全期間のDGには有意な差は認められなかった。

また、両区の体重は、褐毛和種去勢牛の標準体重と比較してほぼ同じかまたは良好に推移した。熊本県家畜改良増殖計画における褐毛和種去勢肥育牛の肥育終了時月齢および体重は、それぞれ 25 カ月齢、755kg であり、「全期利用区」はそれを大きく上回るものであった。

## (2) 1日1頭当たりの飼料摂取量

1日1頭当たりの飼料摂取量(原物)について、図2に示した。

その摂取量は、肥育前期において、「全期利用区」が豆乳粕混合A 7.9kg と飼料イネWCS 6.7kg、「後期利用区」が配合飼料A 7.8kg と飼料イネWCS 6.0kg であり、肥育中期において、「全期利用区」が豆乳粕混合A 0.2kg(前中期切替時期の摂取量)・豆乳粕混合B 9.5kg・稲ワラ 1.2kg、「後期利用区」が配合飼料A 0.2kg(前中期切替時期の摂取量)・後期配合飼料 9.8kg・稲ワラ 1.1kg であった。「全期利用区」、「後期利用区」いずれとも肥育前期および中期において濃厚飼料と粗飼料の摂取量はほぼ同じであったが、肥育後期においては、「全期利用区」が豆乳粕混合Bを 10.2kg 摂取したのに対して「後期利用区」では 7.8kg と 2kg 以上少なかった。これは、肥育後期は肥育が進み満腹感が強くなるが、その時期のみに嗜好性があまり良くない豆乳粕を給与したためだと考えられる。しかし、肥育期間を通して給与した「全期利用区」では摂取量の低下が起こらなかったため、豆乳粕は嗜好性があまり良くないものの習慣付けすれば普通に摂取するものと考えられた。なお、飼料イネWCSは、「全期利用区」が 2.5kg、「後期利用区」が 2.4kg であった。

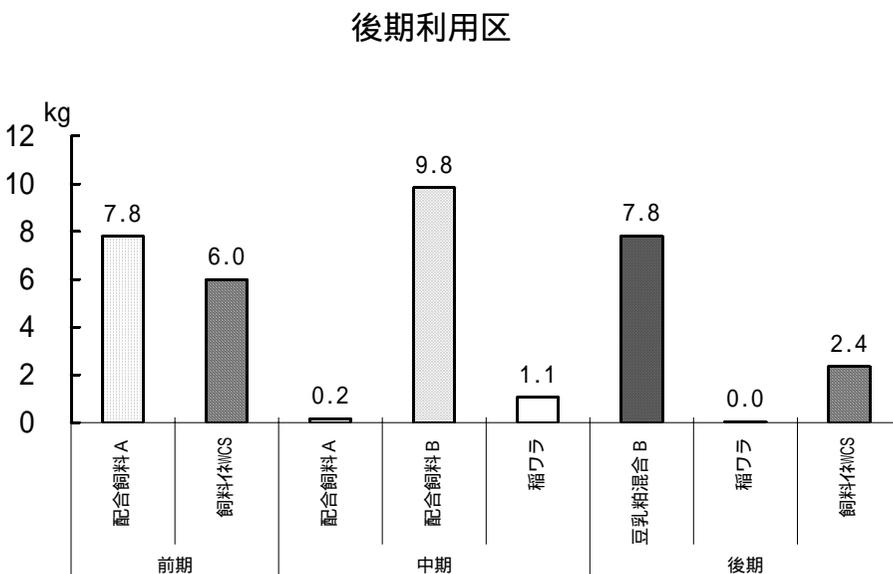
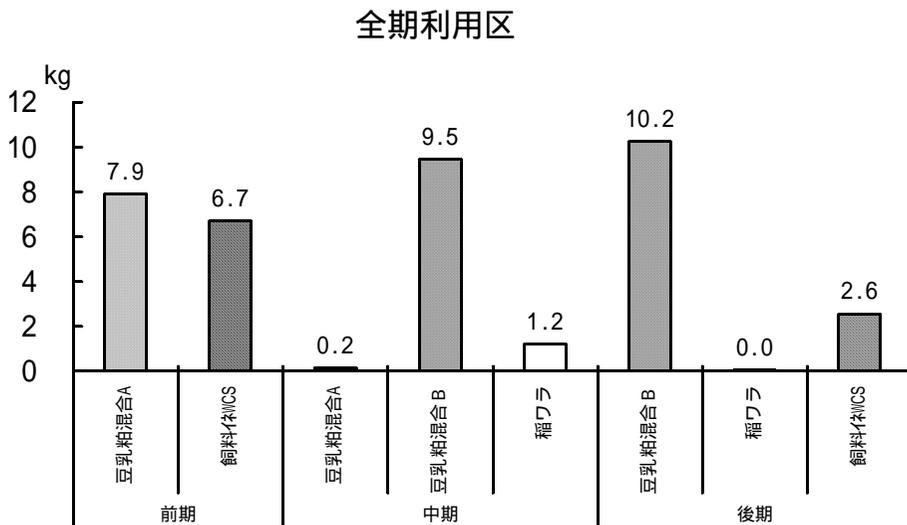


図2 1日1頭当たりの飼料摂取量

### (3) 枝肉成績

枝肉成績については、肉量に関する項目を表3 - 1に、肉質に関する項目を表3 - 2に示した。

肉量に関する項目については、「全期利用区」が枝肉重量 486.4kg、ロース

芯面積 54.4cm<sup>2</sup>、バラ厚 6.9cm、皮下脂肪厚 2.3cm、「後期利用区」でも、それぞれ 473.7kg、50.0cm<sup>2</sup>、6.8cm、2.5cm とほとんど同様な値であり、良好な成績であった。

表3 - 1 枝肉成績 (肉量関係)

	と前体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	枝肉歩留 (%)	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラ厚 (cm)	皮下脂肪 厚(cm)	歩留基準 値
全期利用区	752.0 ±16.7	486.4 ±18.4	64.7 ±1.3	54.4 ±8.7	6.9 ±0.4	2.3 ±1.0	72.9 ±1.7
後期利用区	714.3 ±48.8	473.7 ±27.7	66.4 ±2.0	50.0 ±2.4	6.8 ±0.7	2.5 ±0.8	72.3 ±0.1

肉質に関する項目については、「全期利用区」が脂肪交雑等級 3.0、肉色等級 3.0、しまり・きめ等級 3.0、脂肪の色沢・質等級 4.0、「後期利用区」でも、それぞれ 3.0、2.8、2.8、4.5 とほとんど同じような値であった。脂肪の色を示す BFS は、全頭 No.3 と良好な脂肪色であり、飼料イネ WCS を給与することによる脂肪の黄色化については全くなかったと思われた。

枝肉格付については、「全期利用区」が A4、A2 がそれぞれ 1 頭、A3 が 3

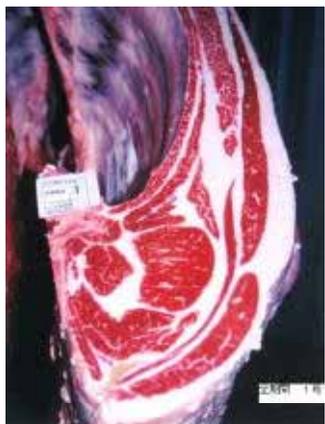
表3 - 2 枝肉成績 (肉質関係)

	BMS No.	脂肪 交雑 等級	BCS No.	肉の光 沢	肉色 等級	しまり	きめ	しまり・ きめ 等級	BFS No.	脂肪の 光沢・ 質	脂肪の 色沢・ 質等級	枝肉格付
全期利用区	3.4 ±1.1	3.0 ±0.7	3.8 ±0.4	3.0 ±0.7	3.0 ±0.7	3.0 ±0.7	3.2 ±0.4	3.0 ±0.7	3.0 -	3.8 ±0.4	4.0 -	A4:1頭、A3:2 頭、A2:1頭
後期利用区	3.3 ±1.3	3.0 ±0.8	3.5 ±0.6	2.8 ±1.0	2.8 ±1.0	2.8 ±1.0	3.3 ±0.5	2.8 ±1.0	3.0 -	4.5 ±0.6	4.5 ±0.6	A4:1頭、A3:1 頭、A2:2頭

頭であり、3 等級以上が 80% と良好な結果であった。また、「後期利用区」では A4、A3 がそれぞれ 1 頭、A2 が 2 頭であった。

現在の褐毛和種における枝肉格付の肉質等級は、おおよそ 2 等級 58%、3 等級 37%、4 等級 5%、5 等級 1% 未満であることを考えると、本試験で実施した肥育前後期に限定した飼料イネ WCS 給与と豆乳粕の全期間給与を組み合わせた肥育方法は、褐毛和種の肥育技術として有効であると考えられる。以上の結果は、飼料イネ WCS を脂肪交雑の増加が活発化する肥育中期以外の時期に給与すれば肉質に大きな影響を与えないこと、さらに豆乳粕を肥育の全期間に給与する方法により、豆乳粕の持つ高エネルギーと高タンパク質

の特徴が発揮され、増体および肉質の向上も期待できることを示している。



1号牛 全期利用



2号牛 全期利用



3号牛 全期利用



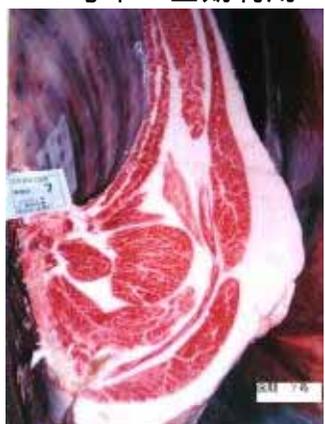
4号牛 全期利用



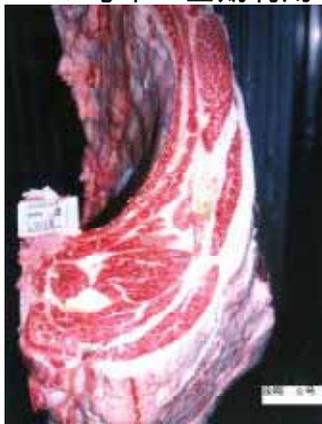
5号牛 全期利用



6号牛 後期利用



7号牛 後期利用



8号牛 後期利用



9号牛 後期利用

## 放牧・粗飼料多給による阿蘇の あか牛一貫生産(熊本県産山村)

(社)日本あか牛登録協会 会長 滝本勇治  
(熊本県産山村 上田尻牧野組合 顧問)

### はじめに

最近、国内産牛肉に対する消費者のニーズは、安全・安心・健康に良いものに関心が集まっている。さらに、環境保全型畜産と飼料自給率の向上を目指して、草地畜産の再生と振興が要請されている。そこで、放牧を主体とした肉用牛飼養により、良質な畜産物生産を目指す、持続的な生産方式を草地畜産地域の基幹となる産地技術として位置付けた「放牧肉牛生産基準」を作成し、阿蘇地域での普及を目指している。

なかでも、同じ牧場内で褐毛和種(以下あか牛)の繁殖・肥育一貫生産を20数年実施してきた産山村上田尻牧野組合の事例を通して、産直方式での牛肉の生産・出荷・販売・流通ルートの整理分析を行った。さらに、同牧場での放牧・粗飼料多給による牛肉について、消費者の理解を高める普及パンフレットについて検討した。本報告は、産山村の一牧場にとどまらず、阿蘇地域の約23,000haを超える牧野の豊富な草資源の活用と全国における持続型草地畜産の推進に資することになる。



写真1 上田尻牧場繁殖雌牛の放牧

### 1. 放牧・粗飼料多給型肥育について

一般に日本の肉牛肥育において、稲わらを主体とした粗飼料の給与水準は、全乾物給与量の10%前後で、濃厚飼料多給による肉生産が慣行的に行なわれている。最近、放牧・粗飼料多給による肥育様式の実態と生産された牛肉の

機能性成分、食味、食感に大きな関心が持たれるようになってきた。とくに、生時からと畜になるまで健康的に飼育された肉牛から良質で健康な内臓・牛肉を産出することができ、その生産物が顧客の健康保持・増進にも役立ち、かつ、肉牛生産者等の自主遵守によって運用可能な生産基準の作成が求められている。

## 2. 粗飼料多給型肥育 - 4つのタイプ -

粗飼料多給型肥育法は、24か月齢仕上げ肥育で、牧草1番草の乾草か低水分サイレージを飽食、濃厚飼料制限給飼、1区画あたり5頭程度の群飼を行なう。粗飼料：濃厚飼料比（乾物摂取量レベル）で、4つのタイプに分けられる。

前期粗飼料多給型肥育 25：75

全期粗飼料多給型肥育 35：65

さらに、放牧哺育・育成による春生まれの去勢雄牛を冬期育成期（約150日）に牧草1番草サイレージ主体で舎飼いし、2夏目の春、再び濃厚飼料無給与で160日間輪換放牧後、250日程度牧草を飽食のまま、濃厚飼料多給型で28か月齢仕上げをする、

2シーズン放牧肥育 45：55

これに準じるもので、秋生まれの去勢雄牛を1夏のみ、2シーズン放牧肥育と同様な放牧をして、24か月齢程度で仕上げ肥育する、

1シーズン放牧肥育 30：70

の4タイプがある。いずれも、自給粗飼料100%給与とする。

あか牛による放牧・粗飼料多給型肥育は、中型種である和牛品種の産肉特性を最大限に引き出すことができる肥育法である。とくに、草地畜産の本領を發揮しつつ、過度な穀物肥育による代謝疾病の発症がなく、牛肉本来の肉味を重視した日本型牛肉生産として、「霜降り肉」と対極の位置にある「高品質赤身肉」は「輸入牛肉」と対比しても見劣りするものではない。むしろ野草、牧草を十分に食べさせて育成・肥育した牛は、内蔵の廃棄もなく、丈夫で、低脂肪の高品質赤肉生産をすることによって商品価値を高めていると言えよう。

## 3. あか牛生産基準作成の留意点

産山村（うぶやま田舎塾で推進）では、あか牛の生産・販売一体の仕組みづくり（図1）として、「あか牛ビーフブランド」を目指しての地域認証制度確立に取り組んでいる。独自認証にかかわる生産基準作成に向けて下記の9項目について検討した。

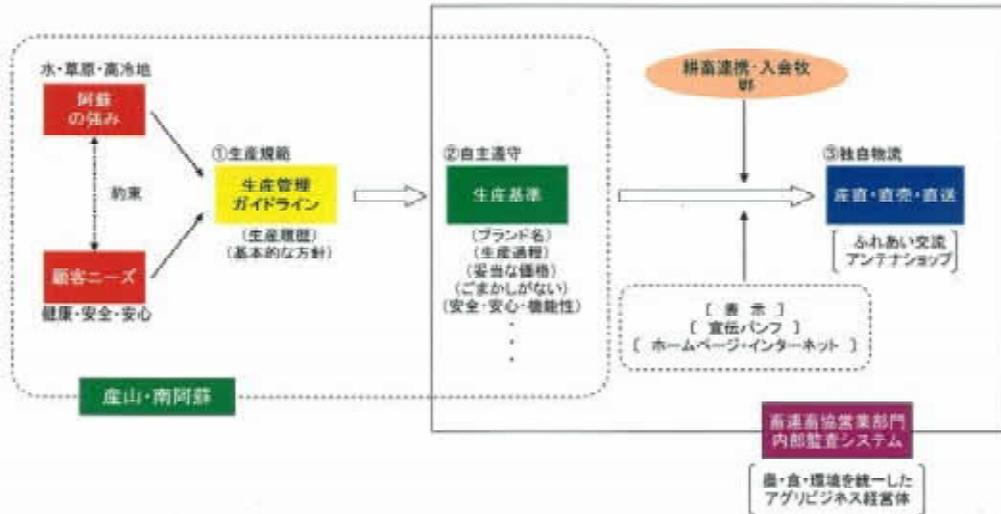


図1 「あか牛ビーフブランド」を目指しての地域認証制度確立に向けて  
 - 生産・販売一体の仕組みづくり -

生産者の顔、生産組織の顔（誰が）

消費サイドへの産地の顔、こだわり表示、牧野組合・畜産協同組合の取り組み

生産物（加工品を含む）の名称、阿蘇あか牛ブランド（何を）

地域エコ畜産物、高品質赤肉ブランド、直売所等の販売製品  
 出所明確（何処で）

阿蘇内輪・外輸入会草地の活用と産地化

産物の物語、水、草原、高冷地、自然循環（何のために）

再生産可能な土地利用型ビーフ生産、感受性ある生き物からの生産、牛肉  
 1kg生産に必要な草原は何アールか、地域ブランド形成、親子放牧、地域内  
 一貫生産、粗飼料100%自給、耕畜連携

生産過程、安全、安心、健康ニーズ（どのように）

牛に涙を流させない飼い方、動物福祉重視、生産履歴、生協組織のニーズ、  
 G A P 的实践

鮮度、味、食感、機能性栄養成分～地域個性品～（満足感）

安全・安心・美味しい肉で人の健康を守る、品質基準の検討、豊かな食生活を  
 創出

ごまかしがない、基準の遵守（正しさ）  
 記帳、内部監査、公開確認会  
 情報公開活動（いやし、やすらぎ）  
 産直牛肉に付加した情報、いやし安らぎサービス提供、牧場公開、あか牛  
 食文化、食育、グリーンツーリズム  
 妥当な価格、安定生産、価格契約（ふれあい交流、産直、直売）  
 牛を丸ごと売りきる流通販売システム、品質に応じた価格、不当に高くな  
 い持続性のある価格、ふれあい交流、産地に食べに来てもらう

4．産山村の取り組み - あか牛繁殖・肥育一貫生産と産直 -

1) 上田尻牧野組合の概要

熊本県の最北東部に位置し、大分県久住町に隣接した標高700m～1050mにかけて、改良草地、野草地、混在草地、混牧林が配置されている。牧場面積は280haで、昭和51年、入会権の自主調整による牧野組合の再編とともに、阿蘇・久住飯田地域で実施された広域農業開発事業（昭和51～55年）に、あか牛生産に意欲的な農家24戸が取り組み、現在の牧場となっている。牧場建設事業とともに、当時、農水省九州農業試験場は、熊本県関係当局を加えて肉用牛の草地畜産技術実証研究を実施した。

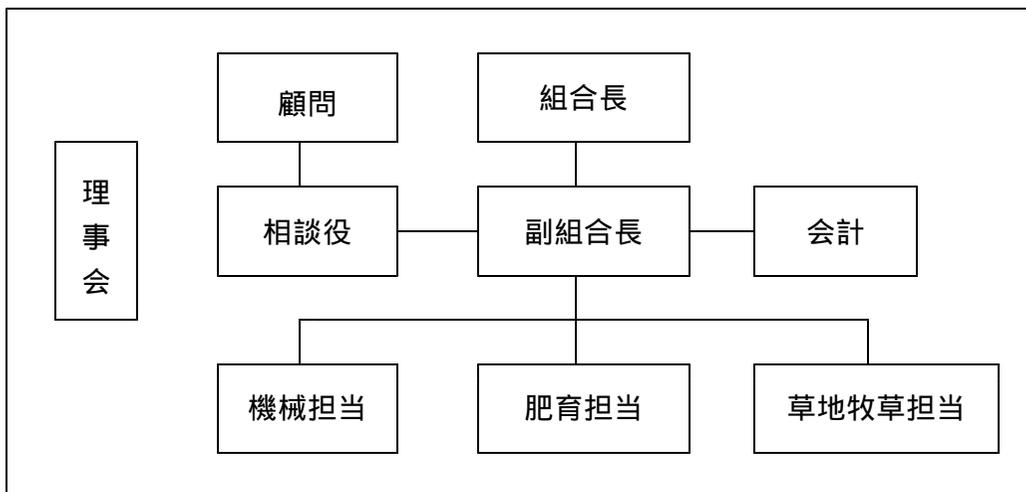


図2 上田尻牧野組合の組織図

その成果を九州農業試験場が「草地畜産技術マニュアル」（1981）としてまとめた。このマニュアルは、総論として放牧再編による肉用牛の生涯生産技術、各論として草地の造成と維持管理、牛群別後追い放牧と繁殖雌牛の夏山冬山方式（周年放牧）、晩秋用放牧草地（ASP）の利用、代償成長を取り入

れた前期粗飼料多給型肥育、放牧成雌牛からの肉生産、育成放牧における衛生対策などを体系的まとめたものであり、これによって現在まで当牧野組合は一貫生産を中心に牧場経営を円滑に継続してきている。

なかでも後述するように昭和58年12月に愛知県犬山市の食肉業者S社と、あか牛の粗飼料多給型肥育による牛肉生産販売の産直委託契約を締結し、年間60頭の出荷を開始し、繁殖・肥育一貫経営を完成した。これによって、牧場建設費用償還財源の安定確保を図るとともに、牧野組合は、組合員が生産する子牛の安定的な需要者となった。

また、S社顧客との産直交流会を実施するなど、顔の見える草地畜産を実践してきた。上田尻牧野組合は「牛は草で作る」を基本理念として、先進的な草地管理と肉用牛生産に取り組んでおり、繁殖子牛生産を中心に、牛枝肉の産直販売と牧草ロールの販売等を行っている。牧野組合の主な活動は ~ の通りである。

村有地280haの入会草地を利用、繁殖牛の周年放牧に最初に取り組んだ阿蘇地域における先進事例となっている。

肉用牛の繁殖肥育一貫経営、草主体の肥育方式をセールスポイントにした「産山さわやかビーフ」産直による販路拡大に努めている。

チンゲンサイなどの新作物と統合した有畜複合経営を確立、山間地域農業に活路があることを実証している。

組合の組織図(図2)に示すように、組合員の責任分担を明確にしている。

## 2) 産直S社の概要

先述のとおり、S社は、上田尻牧野組合生産の「産山さわやかビーフ」を昭和58年以来、覚書を交わして(表1)、現在まで、あか牛による粗飼料多給型肥育牛肉を販売してきた。直販と出張パーティーサービス、産地見学ツアー、料理教室など、消費者の茶の間と直結した活動が注目される。宅配方式で、生鮮肉、加工品、冷凍品、牛脂石鹸など牛丸ごと使いきりで営業している。以上のハード商品の他に、ソフト商品として、クレームへの対応、問い合わせアンサーなど情報・提案の発信・収集とお客様との接点として、工房見学、情報交換会、誕生会、ウイナー教室、昭和57年にS社社長が初めて上田尻牧場に足を踏み入れてから今年で25年目になり、この間、牛肉輸入自由化、物流革命、情報革命、BSE問題等々を乗り越え、外部の環境が激変した中、今後の産直のあり方について新システムを考える時期に来ている。

表1 S社との覚書概要

調印日	前文	牛品種	肥育方法	品種	枝肉価格	上田尻牧野組合長	備考
昭和58年 12月3日	粗飼料を中心飼料として、且つ十二分放牧する牛本来の肥育をし、健康な成体作りを進める。  一方消費者には十分な説明と理解を求め、褐毛和種の固定客作りを推進する。  2年後には、産山村地区を褐毛和種の優良肉牛産地となることを最終目的とする。	褐毛和種	放牧牛のマニュアル（九州農試編）を基本として肥育	等級区分で中クラス、並のクラス	1,500円/kg	井 安夫	周年出荷に努める 昭和59年10月～60年9月
平成2年 1月5日	同上	同上	同上	同上	1,700円/kg	井 信行	周年出荷に努める 平成2年1月～2年12月
平成2年 12月17日	同上	同上	同上	同上	1,700円/kg	井 信行	月間4頭、年間48頭 周年出荷に努める 平成3年1月～平成3年12月
平成5年 12月17日	放牧褐毛和牛の肥育にあたり、T理論に基づく粗飼料多給及び十二分な放牧による牛本来の肥育システムを確立し、健康な生体作りを進める。  消費者に十分な説明と理解を求め放牧褐毛和牛の固定客作りを推進する。	同上	粗飼料多給 24ヶ月齢以上	A2～A3 歩留等級 72～74%	1,400/kg BCSS、6、7 は100円引き 皮下脂肪厚28mm 以上100円引き	西村 光	24ヶ月齢以下100円引き 歩留等級 72%以下100円引き 74%以上100円プラス

### 3) 出荷牛の枝肉性状と肉質

例示としてS社へ出荷した17頭の平均枝肉重量、枝肉単価は、それぞれ374.4kg、1,432円で、1頭当たり枝肉金額は536,141円であった。枝肉から部分肉としてS社へ搬入されるまでに、重量で24.9%減、部分肉流通経費として1頭当たり65,841円を要し、S社牛肉売上げ加工開始原価は2,140円/kgとなっている。

日格協における枝肉格付は、17頭中16頭がA2で、残り1頭のB1は正肉歩留が72.4%であったことから、歩留等級Aランクであったものの、「もも」の厚みに欠けるなどの格下げによるものと思われる。興味深いのは、S社が独自格付けを行っていることであり、A1が17.6%、A2が70.6%、A3が11.8%であったことである。

BMS(牛脂肪交雑基準); 2は35.3%、3は17.6%、4は41.2%、7は5.9%で、脂肪交雑等級区分では、2(基準に準ずるもの)が35.3%、3(標準のもの)が58.8%、4(やや良いもの)が5.9%となっている。粗飼料多給型肥育法(産山さわやかビーフ)の目標とするサシの程度は2～3であり、上田尻牧場出荷牛はその目標をクリアしている。

BCS(牛肉色基準); 2が5.9%、3が29.4%、4が47.1%、5が5.9%、6が11.7%で、5以下が90%近くで、肉色がダークである7が皆無で、6が2頭でている。

BFS(牛脂肪色基準); 3が11.8%、4が23.5%、5が47.0%、6が11.8%、7が5.9%で、薄クリーム色からクリーム色まで

が多く、粗飼料多給与による牛脂肪へのカロテンの沈着がよく見られ、特色がよくでている。

肉の色沢；等級3（標準のもの）が64.7%、等級2（標準に準ずるもの）が23.5%、等級1（劣るもの）が11.8%であり、さわやかビーフとして、90%近くはほぼ満足するものであった。

肉のきめ締り；等級3（標準のもの）が52.9%、等級2（標準に準ずるもの）が41.2%、等級1（劣るもの）が5.9%であり、さわやかビーフとして、95%近くはほぼ満足するものであった。

背脂肪の厚さ；「うすい」が64.7%で、「ふつう」が35.3%であり、「あつい」は皆無であり、粗飼料多給型肥育法の特色がよくでている。

さらに、S社では入荷牛の肉質を総合的に判断していて、「良い」「普通」「劣る」の三段階評価を独自に行っている。その内訳は、「良い」が41.2%、「普通」が52.9%、「劣る」が5.9%で、95%近くが満足できるものとしている。

ここで、さわやかビーフ赤身肉とは、ロース芯における脂肪含量が8%以上のものを指している。BMS(X)と胸最長筋脂肪含量(Y)との関係は $Y = 1,637 + 2,439X$ （中国農業試験場報告）であり、さわやかビーフはBMSで2～4程度のもので、上田尻牧野組合出荷牛は、ほぼこの域値内にある。

#### 4) 25年間産直を続けてきたS社の取り組み

S社は顧客に対して、国内資源を活かし、安心して食べられる食肉製品の提供を通して、食生活に貢献することをモットーとしている。「産山さわやかビーフ」は放牧和牛として、内臓疾患がなく、薬剤の使用がなく、赤身肉であることで脂肪が厚くならず、低コスト低価格で、健康な肉牛から生産された安全・安心な牛肉であることを宣伝している。また、工房見学者等には「脂肪の色は健康の証」のビデオで上田尻牧場や牛肉特性、産直活動などを紹介している。

S社はネーミングを「産山産・褐毛和種」として宅配並びに予約店頭販売している。物流革命、情報革命で農家、生産者とのつながりが太くなってきた。「消費者は豊富な商品知識と情報を持ち、選ぶ、判定がシビアとなり、クレームを販売店、生産者へ言う時代となり、テンポが速く、すぐ反応しないとお客が減る。あらゆる商品が完成度の高いものが要求される。新しい競争相手が出てきて、消費者を止めることは難しい。共同購入をやめて、個人買いとなることが産直の悩ましいところだ」と話している。

## 5. 独自認証制度確立に向けての作業

前述の「あか牛生産基準」作成に当たって、うぶやま田舎塾はあか牛の地域認証制度確立に取り組んでいる。なかでも上田尻牧野組合産牛肉の独自認証に向けての取りまとめ作業を次の～について行っている。農畜産物の生産管理方法の開示、自主遵守すべき生産基準の内容検討、販路の確保、流通等消費者側との情報交換会、先発実践農家、牧場等の特定、畜産物の表示と表示責任の明確化、産直先、直売先、直送先、予約生産、宣伝パンフレット作成、インターネット公開。

### 1) D社と「うぶやま田舎塾」との取り組み

D社は従来の霜降り肉売り場の中で上田尻産褐毛和牛コーナーを設け、うぶやま田舎塾と協働で顧客から試食アンケートをとり、「安全でおいしい牛肉を食べたい」そんなお客の声をカタチにする「カスタムズ・ビュー」商品開発に結びつけたいとしている(図2)。



図3 粗飼料多給型肥育による褐毛和牛肉のパンフ(表紙)

上田尻牧野組合の粗飼料多給型肥育牛による牛肉産直のD社との取引で、

従来の店舗展開のポジションは、店舗の棚割りの隅から中段へさらに最上段の棚を獲得するまでに至り消費者のニーズに応える段階まで到達しているため、今後は安定した定時、定量、定質の供給体制の確立が求められている。

## 2) 「お客さまの声を、美しいカタチに」への展開

そこで各店舗（神戸店、新長田・須磨店、梅田店、心斎橋店）の取組を調査した結果、デパ地下（食料品売場）の棚割りで「褐毛和牛」がコーナーを獲得し同社の将来を見据えた消費者に軸足を向けた並々ならぬ事業展開が伺えた。また、新ポジションを獲得し、将来に渡って取引するには、次の6項目を両者が確実に履行・遵守し未来永劫に信頼を勝ち取ることにほかならない。

表2 履行・遵守の内容

項目	履行・遵守 内容
新しいブランドポジション	特徴は飼育のときからこだわり 消費者に訴えるもの、健康、安全、安心、田舎のロケーションと産物(米、漬物、水、椎茸、チンゲンサイなど)
安定供給	増頭は草の増産が基本
事務局は	上田尻牧野組合が実務&事務局が可能か。メール&タッチパネル等の操作（大丸本社 店頭 顧客からの問い合わせ等リアルな対応、最新の情報の入力&開示）、インターネット開設
現状の打開策、安定供給(約370～400頭)の対応策、D社が示す生産基準に合致した生産体制(増頭)の年次計画の意思表示。	Aタイプ産山村（上田尻）で生産、Bタイプ産山村(上田尻)で生産不可能な場合同生産基準で阿蘇地域内生産可能か？
管理基準遵守	生産基準を明確に示し 生産基準を遵守した牛肉を店頭へ顧客の比較購買(他の牛肉との差別化・評価) 生産基準遵守の証 生産地・生産者からの情報開示(事務系の業務が負担になる) 情報の共有(手法、ノウハウ)。
商品イメージ	阿蘇・産山のイメージ&褐毛和牛の特徴を最大限に活かした「自然循環型生産基準遵守」こだわりの牛肉の提供。

## 3) 確認事項

ブランド名を「阿蘇・上田尻産<sup>あかげ</sup> 褐毛和牛」として、生産基準（D社事例）遵守の確認事項を組合とD社とで協議した。両者の共同品質基準の確認と遵守態勢が次のように確立されて始めて、消費者のニーズに応えることが可能となる。

表3 上田尻牧野組合・D社共同品質基準

上田尻牧野組合・D社共同品質基準	確 認
現状の生産基準の確認	健康な牛、安全、安心の証明(健康管理&詳細な飼育日誌記帳)
管理サイクルの確認、整合	導入時 飼養管理(日/週/月/半期・年/出荷時)
新しい管理体制	基準管理 人選・業務・事務局 適用範囲 管理施策
上田尻牧野組合管理組織図、役割	<p>草の確保:ロールの重量、肥育期間1頭当りロール7~8個の確保</p> <p>導入:相談役へ委託 親子放牧の証明(牧野組合の所属で判断):放牧頭数</p> <p>放牧牛管理:組合員1日/12人(詳細な放牧日誌:牛の健康管理)</p> <p>肥育牛管理:肥育専任1人(肥育担当班長)(詳細な飼養管理日誌:牛の健康、草を飽食した証明、計量)</p> <p>資源循環:堆肥牧草地還元(機械担当班で出役)</p> <p>現状:組合長、副組合長、会計の三役と顧問、相談役、担当班(肥育担当、機械担当、草地牧草担当)で組織している。</p>
養牛生産管理システム“シンシア”について	<p>D社としては、牧草由来の機能性成分、褐毛和種の特性、健康牛、安全・安心の実証性を消費者にリアルタイムで伝えたい。</p> <p>システムの導入:地元のJA、経済連、全農からの勉強会開催システムの入出力:牧野組合独自、委託、専従者か?</p>

4)「安全でおいしい牛肉が食べたい」お客様の声を、美しいカタチに(D社)

前述のS社は一頭丸ごと自社ですべて処理・販売しているが、D社の強みは直営の肉の仕分け販売施設(子会社)を持っていて、一等肉以外の使い道を明確にしている。一般に市場流通では、産地からの委託販売が原則で、市場から先の実需者が分らなかった。産直では赤身で、和牛で、味が良いだけでなく、こだわりが無いと売れない。この点、D社は顧客のニーズをカタチにするとすることで、売り場での提案が出来て、生産地と顧客との信頼関係を確実につないでいる。このような産直になると、安定した供給力と品質管理に結びつく「生産基準」をきっちりと求めてくる。つまり、定時、定量、定質が原則で、消費者へ訴える商材を要望している。また、D社と共同で顧客アンケートを取ることにした。ここでは、生産者~販売者~生活者における情報の共有化と連携を強化しなければならない。その上での価格決定であり、地域ブランド化に結びつく。

また、これに対応して、生産側は今まで以上の組織化が要求され、本格的な牧場経営システムの構築を急ぐ必要がある。

牧場は、消費地である都会に直売所をつくり、顧客から指名買いされるような「ブランド牛肉」となり、顧客との約束ごとを明確にする。D社では「赤身和牛」、「褐毛和牛」と表示して店頭販売している（写真2）。

今後、牧場は入会牧野組合をベースにした農事組合法人化が進展し、子牛生産から付加価値を付ける肉生産まで、村内の牧場を糾合して、放牧を主体とした広域ネットワークによる通年供給システム、コントラクター、内部監査システムの構築などを含めた地域内での農商的経営体を目指すことが重要となる。



写真2 上田尻褐毛和牛の生産基準、牧場紹介パンフを提示しての肉売り場（D社）

おわりに

1) 産山村の対応：全国あか牛ファンにこたえて、粗飼料多給・健康牛肉の安定供給を目指し、村内の牧野再編・保全と新規就農促進を図り、素牛の増頭と粗飼料の増産によって肥育牛を増やす。そのために村内の12牧野組合を結集・連携して一貫生産を行う「あか牛の村」づくり事業を平成18年5月に発足させた。

2) 阿蘇・草原和牛の振興方策は：放牧主体畜産の生産管理ガイドラインとして、次の四原則を提示した。牛に涙を流させない飼い方、再生産可能な生産システム、牛を丸ごと売り切る流通販売システム、安全・安心、美味しい肉づくりで、これにそって各地域に合った生産基準作りをすることが望まれる。

# 生産者と消費者の交流イベント 「あか牛がつなくふれあいフェスタ in 中央

(社)熊本県畜産協会 川崎広通

はじめに

我が国では平成13年9月に発生したBSEを契機に風評から牛肉の消費が激減し、その結果、牛枝肉価格が下落し、また子牛価格も低迷したことから、肉用牛農家は大打撃を受けた。そんな中、熊本県下益城郡美里町ではあか牛の改良増殖を目的に設立されたあか牛生産改良組合が中心となり、あか牛の普及啓発と牛肉の消費拡大を目指して、組合自らが牛肉まつりを開催することとなった。その結果、消費の拡大に効果が見られ、生産意欲の高揚に寄与するなど副次的な効果も出ており、局地的なあか牛の振興と交流の活性化や今後の食育推進の観点からも注目されるところである。

## 1. 対象とした地域

### 1) 地域の概況

美里町は、熊本県のほぼ中央に位置しており、熊本市から南東へ約30km、車で約40分程度の距離にある自然豊かな地域である。

東に九州山地が広がり、さらに山や川に囲まれた自然を活かし、人々が連携しながら農林業を中心に営み、石橋、里山、棚田等地域資源を保持しつつ、里山文化を形成した地域である。美里町は平成16年11月1日に中央町と砥用(ともち)町が合併して誕生した。平成19年2月1日現在の世帯数は4,263戸、人口12,598人、面積144.03平方キロメートル(美里町ホームページより)となっている。美里町の町名は、全国から公募した中から選考し、「いつまでも美しいふる里でありますように」等の理由から美里町となっている。

### 2) 肉用牛の概要

この地域は、古くから、和牛褐色和種(通称:あか牛)が飼養されており、最近ではみかんや桑畑の廃園など未利用地を利用した放牧も盛んに取り入れられた地域でもある。

平成19年1月1日現在、美里町の肉用牛飼養農家は111戸で、飼養頭数は1,222頭である。

## 2. イベント取り組みの内容

### 1) 開催の経緯

美里町には、旧中央町と旧砥用町で2つのあか牛(褐毛和種)の生産改良組合(以下「改良組合」という。)がある。

改良組合は子牛生産の振興と組合員相互の融和と組織の増強を図り、農家経営の健全なる発展に資すること目的に設立された。当初は肉用牛の生産、技術の向上を主体に活動していたが、平成13年のBSE発生を契機に低迷した牛肉業界に、「われわれだけでも消費拡大しよう。自分たちもどうかして牛肉を宣伝し、売ろう。」と地産地消と消費者に目を向けた活動を始めた。

自分たちで何ができると試行錯誤した結果、改良組合はそれぞれ毎年牛肉フェスティバル和牛生産者大会の呼称で牛肉祭りを開催することとなった。

中央町改良組合は「あか牛がつなくふれあいフェスタ in 中央」、砥用町は「石橋とやまびこの里 in ともち」の呼び名で始まり、中央町は平成20年3月で第7回を迎え、砥用町改良組合は平成19年11月で第6回を数えている。



写真1 焼き肉を食べながら

### 2) イベントの運営

中央和牛改良組合は、組合員が約40名おり、その半数が準備、運営、後片付けまで行い、これに対し、県地域振興局、町役場、農協等の職員は一部手伝う程度である。

運営は、全て改良組合自らが企画し、予算を立て、会場の設営から終了後の反省会までやっている。

現在、フェスティバルには牛1頭を丸ごと利用しているが、最初は赤字を危惧し半丸から始めている。元々イベント開催を目的とした運営資金は無く、改良組合員の繁殖肥育一貫農家に肥育牛1頭の提供を願い、半丸を予約販売用に、残り半分を会場のイベントに充て、残りの経費はチケットの販売で捻出することとした。

第1回目の開催時はBSEの発生により価格が低迷している中、肥育牛提供者が不利とならぬよう、当時としてやや高めの1頭50万円で買い上げた。業者を通さないため枝肉単価が約600円でも、実際は1,000円以上で販売できたため損は無かった。現在は、枝肉相場より50円程度高く買い上げている。



写真2 お楽しみ抽選会

### 3) イベントの内容

イベントの内容は以下の通りである。

中央地区「あか牛がつなぐふれあいフェスタ in 中央」

#### ア 試食コーナー

バーベキュー（焼肉） モモの丸焼きコーナー

牛スジの煮込みコーナー 焼きそばコーナー

ハンバーグコーナー

#### イ 飲み物コーナー（有料）

#### ウ 農産物(シクラメン等)オークション

#### エ 楽しみ抽選会(野菜等)

#### オ あか牛の消費拡大と注文販売

モモの丸焼きは10キロもある肉を回転させながらダイナミックに焼くことによって、柔らかく風味があり、美味しいことから客に人気があり、フェスティバルの看板となっている。(写真3)

### 4) 来場者への呼びかけ及びチケットの販売

このイベントは消費拡大運動であり、地域へのPRには、まず町議員へアピールすべきとの意見が組合員から出され、呼びかけの1番手に町議会議員

を考えた。議員を来賓にチケットを優先配布し、「地元の間が買わないでどうする。」と割当てにも似た言い回しで率先購買を呼びかけ、一般への周知は新聞へのチラシの折り込みの他、ラジオのイベント情報コーナーで紹介を行なっている。

チケット価格は当初1枚1,000円であったが、現在は1,500円になっている。

チケット1枚につき牛肉150g（焼き肉用100g及びステーキ用50g）、おにぎり2個、野菜セット及び乾杯用お茶1缶が付いている。

参加した関係者はそれだけで1,500円の対価は十分あると言い、更に、各コーナーで試食用のハンバーグ、牛スジ煮込み及びモモ丸焼きが無料で食べられるため不満もでていない。開催当初は、配布牛肉に一定の取扱方針がなく、会場で食べる人、持ち帰る人が半々位であったが、全て会場で食べることにより、牛肉の不足を緩和している。

チケットの販売は、改良組合員が中心となり予約販売で実施しており、町の経済課及び熊本県畜産農協城南支所においてとりまとめている。毎年恒例の催しとして定着した現在では、焼肉台に限りがあることから約300枚の制限したチケットは事前に完売している状況である。

なお、第2回の大会には、モーモーレディース（婦人部）の参加や宇城管内に着任した外国人英語の教師10名が招待されるなど、彩りを添えるなど毎年趣向をこらしたイベントとなってきた。参加した教師からとった英文アンケートでは好評を得ている。

また、町の協力で招致したカントリーミュージックのボーカルグループ「チャーリー永谷とキャノンボール」の演奏があった年には、あか牛を知らないファンが熊本市などから押し寄せたため大盛況で、来客は300名をはるかに越え、新たな消費者の開拓にもつながった。（写真4）（写真5）

現在では改良組合員、モーモーレディース、町の経済課及び熊本県畜産農協城南支所などが協議会（実行委員会）を構成して、さらなる発展を遂げている。



写真3 モモの丸焼きコーナー

### 3. 事業の効果

#### 1) あか牛の普及・啓発と安全・安心の浸透

この催しは地域内外にあか牛の存在と牛本来の味、安全・安心を知らしめる機会となり、あか牛の消費減少に歯止めが掛った。併せて、あか牛の底辺が拡大し、盆、暮の自家用、進物用として牛肉消費も増えてきている。また、このイベントを実施したことにより改良組合員の団結力もより強化されることにつながった。

地域の畜産物を地域で消費するいわゆる地産地消運動から始まり、農村部の生産者と都市部の消費者が交流することで信頼関係が築かれ、牛肉の消費拡大とともに美里町を内外にアピールすることができた。



写真4 コンサート風景



写真5 音楽に合わせて踊り出す

#### 2) 生産意欲の高揚とあか牛減少・耕作放棄地に歯止め

BSEを契機に生産者自らの発意で開始したが、他からの資金的援助も無いなかで自ら運営し、欠損金も出さずに反省会費用までも捻出できた上、単発に終わらず継続できたことが、生産者の自信と生産意欲の高揚につながった。その結果、地域のあか牛の減少及び耕作放棄地の増加にも歯止めが掛り、未利用地利用放牧やコントラクターの利用も拡大することになった。平成18年6月に開催された第10回草地畜産コンクール(日本草地畜産種子協会

主催)では組合の会員である明石氏が廃果樹園のシバ型草地造成などで表彰されている。

### 3) 親子ふれあいの場の創出

このイベントでは昨今親子と一緒に笑顔を交わす機会が少ない中で、青空の下で屈託ない、楽しいふれあいの場が創出されている。

会場では、牛肉はもちろんのこと地元の花農家が栽培した花(シクラメンなど)や野菜のオークションが行なわれ、飲酒の勢いもあって盛り上がり、肉は店価よりkg当たり50円

高、市価1,000円程度のシクラメンが2,000円、3,000円の価格で落札されている。(写真6)



写真6 オークション

### 4. アンケート結果の概要(平成19年2月の開催時に実施)

平成19年2月25日に開催された「あか牛がつなくふれあいフェスタ in 中央」に参加した約300名に実施したアンケート結果について以下の通りとりまとめた。回収者数は60人と少なかったが、その要因としては夫婦や家族などグループで参加する者が多かったこともあり、その代表として回答したことと関係すると思われる。

回答者の性別としては男性が35%、女性が65%となっており、食に対する女性の関心の高さを示している。年齢別構成をみると、10歳代2%、20歳代10%、30歳代21%、40歳代2%、50歳代27%、60歳代19%、70歳代19%となっている。あらゆる世代の参加がみられたことは、このイベントが家族で参加するふれあいの場になっていることがわかる。参加地域別構成をみると美里町内42%、町外58%となっており、約半々である。今後は地域外の参加者を募る手法も検討すべきである。イベント参加経験の構成をみると過去に参加したリピーターが56%、初めてきた人が44%となっている。初参加が40%以上もいたことでさらなる参加者

開拓の余地があると思われた。

次は牛肉の内容について、まず肉の味を尋ねたところ98%がおいしいと回答している。肉のかたさを尋ねたところ75%がやわらかい、23%が普通と回答した。この種のアンケートとして、牛肉の評価で一番はやわらかいものが好まれることが多いが、今回もその結果になったことがわかる。肉の色を尋ねたところ96%が良いと答え、普通、気にしないものが残りの4%で、色が悪いと回答したものはいなかった。脂肪の量を尋ねたところ適量と回答したものが全体の74%を占めている。

牛肉を買う時に気をつけているのは何ですか？という質問に対しては値段が一位で、次に産地であった。牛肉に個体識別番号(トレーサビリティシステム)が付いていること知っていますか？という質問に対しては、70%以上の人を知っていると答えており、パソコン等で検索した人が数%いた。

イベントの内容についての質問に対しては楽しいが76%、どちらでもないが24%でつまらないと答えたものはなかった。イベントのうち一番楽しかったものはオークションと答えていた。来年もまた来ますか？の問いに対して98%の人がまた来ると回答していた。参加料金(1500円)は？の質問には5%が高いと答えていた。

以上のアンケート結果を総合するとこのイベントに使われたあか牛の肉の評価は高く、イベントの内容も高い評価を受けたといえる。関係者はこのアンケート結果を次年度以降のイベントに活かしていきたいと答えていた。

## 5. 今後の課題

### 1) 催しの拡大への制約

改良組合員としては、この催しが地域におけるあか牛の消費拡大につながったことから、出来れば将来、参加人数を増やしたイベントに持って行きたいという構想はある。しかし、使用できる焼肉台に台数の限度があるうえ、増えたとしても保管スペースを要することから設置台数が制約されるために参加人員が制限されるなやみがある。今後は美里町の事例を踏まえて、規模を大きくしていくためにまわりの市町村を取り組んだ地域全体の活動として開催していく必要があると思われる。

### 2) 学校教育等との連携

当該行事は、町内の食に関するイベントとして定着してきている。あか牛は、伝統の地域食材として期待される中で、現在のところ通常時で学校との連携はない。しかし、イベントのために用意されたあか牛牛肉の一部は町内

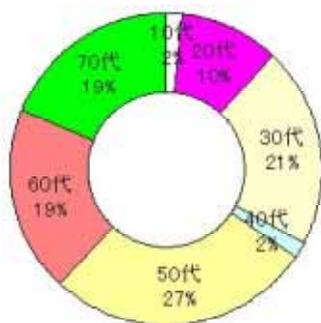
の小学校、中学校の給食用として買い上げられており、少しずつではあるが町内の教育現場と連携が進んでいる。

平成17年6月に食育基本法が施行され、食育に関する意識が高揚する中で、今後は地域の産物であるあか牛を振興するうえからも、地産地消を推進する上からも学校教育等との連携を推し進める必要がある。

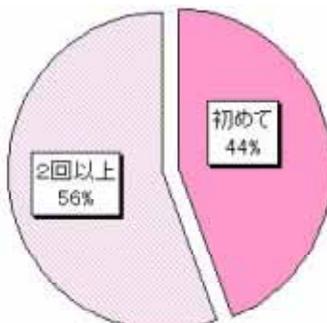
おわりに

改良組合は牛肉の消費低迷を打開するために実施した地産地消運動から始まり、イベントを通じて農村部の生産者と都市部の消費者が交流することで新たな信頼関係を築いてきた。あか牛は体が頑丈で、性質がおとなしく、飼いやすく、牧草などの粗飼料をよく食べ、太りがはやいために短期間に牛肉に仕上がるなどすばらしい特徴がある。まさに、地球にやさしい、人にやさしい牛といえる。これからも改良組合があか牛の消費拡大を図りながら、さらに都市部の消費者とともに地域の活性化と振興に取り組んでいくことを期待したい。

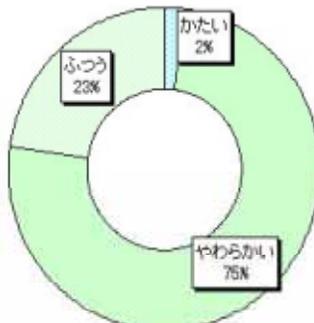
アンケート結果（一部抜粋）（平成19年2月実施）



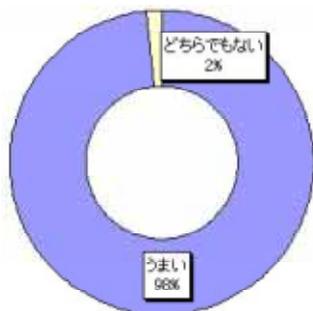
参加者の年齢層



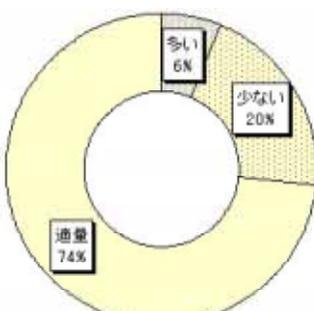
参加するのは何回目？



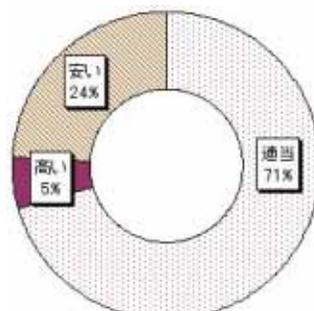
肉の固さは？



味は？



脂肪の量は？



参加費は？

# 会 報

## 監査会

平成19年6月12日、本会事務局において定期監査が実施された。大野、吉田両監事が出席、平成18年度事業報告書ならびに収支計算書、関係書類諸帳簿の整理状況、その他会務運営全般にわたって監査が行われた。

## 理事会

1.平成19年3月29日、次の議案について書面による理事会を開催し、いずれも原案通り承認可決した。

第1号議案 平成19年度暫定予算について

2.平成19年6月22日、熊本県畜産会館において平成19年度第1回理事会を開催し、平成19年度通常総会に提案する議案3件について審議し、いずれも原案どおり承認可決した。

## 通常総会

平成19年6月22日、熊本県畜産会館において平成19年度通常総会を開催した。

当日は九州農政局畜産課の西山信雄課長、熊本県農林水産部畜産課の平山忠一農政審議員などの来賓と各道県支部から多数の関係者が出席して下記の議案について審議、いずれも原案通り承認可決した。

第1号議案 平成18年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成19年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の承認の件

第3号議案 役員改選の件

# 平成18年度事業報告書

## ．庶務関係

### 1．定期監査

平成18年5月22日、本会事務所において、吉田、大野監事出席のもとに定期監査が実施された。

### 2．理事会

平成18年6月2日、熊本県畜産会館において理事会を開催し、次の議案について審議した。

(1) 平成18年度通常総会提出議案2件

第1号議案 平成17年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成18年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)の承認の件

### 3．通常総会

平成18年6月2日、熊本県畜産会館において平成18年度通常総会を開催し、下記の議案を審議、いずれも原案通り承認可決した。

第1号議案 平成17年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成18年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)の承認の件

### 4．農林水産省法人検査

平成18年11月29日、本会事務局において農林水産省畜産振興課の飯野技官、加藤事務官による法人検査が実施された。当日検査された主な事項は次の通り。

ア 業務の運営状況

イ 事業の内容及び実施状況

ウ 会計処理、収支及び資産の状況

エ 予算及び決算の状況

オ その他必要な事項

## ．事業成績

### 1．会員並びに登録・登記の状況

本年度の会員数は、対前年比8%減の1,946名であった。

繁殖登録は増加し、育種高等、産肉登録ならびに子牛登記は減少した。

各道県別の会員数並びに頭数は表1の通りである。

表1 道県支部別会員数・登録登記頭数

区分 支部別	会員数	育種高 等登録	高等登録	産肉登録	産肉登録	子牛登記	登録登記 合計
北海道	105(109)				97 (75)	624 (573)	721 (648)
岩手	20(20)				8 (6)	81 (81)	89 (87)
秋田	65(75)				10 (17)	82 (113)	92 (130)
埼玉	1(1)				5 (0)	2 (7)	7 (7)
茨城	1(1)				0 (2)	0 (2)	0 (4)
静岡	2(2)				1 (3)	2 (3)	3 (6)
長崎	28(28)				3 (11)	60 (59)	63 (70)
対馬	61(61)			1	45 (29)	166 (148)	212 (177)
熊本	1,668 (1,951)	15 (32)	16 (32)	12 (17)	806 (797)	7,121 (7,290)	7,970 (8,168)
計	1,946 (2,100)	15 (32)	16 (32)	13 (17)	975 (940)	8,138 (8,276)	9,157 (9,297)
前年比	92.7	46.9	50.0	76.5	103.7	98.3	98.5

注：( )内数字は前年度実績、 は支部未設置県を示す。

## 2．育種改良事業

(1) 国、県が推進している肉用牛広域後代検定推進事業に積極的に協力し、候補種雄牛の能力調査、基礎雌牛の選定など優良種畜の選抜、な

- らびに不良形質の除去対策などに取り組んだ。
- (2) あか牛集団の血統の偏りを是正するための特定形質種雄牛造成事業に協力し、計画交配の手法を検討するとともに稀少系統の保存に努めた。
  - (3) 間接検定、現場検定及び一般の肥育成績を調査し、得られたデータについて分析、育種改良の基礎資料とした。
  - (4) 超音波測定器による肉質形質の調査及び育種改良への応用  
候補種雄牛、繁殖基礎雌牛の選抜利用法の確立のために超音波測定による肉質の診断を実施した。

### 3．普及指導事業

各県支部が主催した研究会、研修会等に担当者を派遣し指導に努めた。

### 4．組織対策事業

支部の活動及び会員の各種会合等に対して協力した。

### 5．刊行事業

機関誌『あか牛』を刊行した。

### 6．表彰事業

各種共進会に対し、副賞を贈呈して上位入賞牛を表彰した。

### 7．受託事業

#### (1) 計画交配推進調査事業（熊本県委託）

肉用牛広域後代検定推進事業の補完的な事業として、基礎雌牛の選抜、超音波測定、血統分析、繁殖成績等の特性や能力ならびに異常形質の発生状況について調査し、計画交配の推進に努めた。

#### (2) 家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団委託）

登録証明書の発行をコンピュータで処理する、改良体制整備事業を実施した。

また、個体識別システムを利用した登録事業について検討した。

#### (3) 肉用牛生産性向上対策事業（全国肉用牛振興基金協会委託）

効率的な肉用牛生産技術を普及するために指導者の研修会を開催した。

# 平成18年度収支計算書

社団法人 日本あか牛登録協会

収入総額 29,975,796 円  
支出総額 28,132,565 円

自：平成18年4月 1日  
至：平成19年3月31日  
(単位：円)

収入の部				
科目 (大、中、小)	予算額	決算額	増減	備考
1. 会費収入	3,472,000	3,169,600	302,400	
1. 会費収入	3,360,000	3,113,600	246,400	1600円×1946名
2. 賛助会費収入	112,000	56,000	56,000	1600円×35名
2. 事業収入	26,778,500	24,454,700	2,323,800	
1. 登録料収入	26,577,500	24,323,800	2,253,700	
1. 育種高等登録料	300,000	170,000	130,000	雄30000円×1件 10000円×14件
2. 高等登録料	240,000	144,000	96,000	雄24000円×1件 8000円×15件
3. 産肉登録料	160,000	104,000	56,000	8000円×13件
4. 繁殖登録料	6,000,000	5,934,000	66,000	雄18000円×7件 6000円×968件
5. 月齢超過料	77,500	68,200	9,300	1550円×44件
6. 子牛登記料	18,700,000	17,903,600	796,400	2200円×8138件
7. 交雑登記料	1,100,000	0	1,100,000	
2. 証明料収入	201,000	130,900	70,100	
1. 移動証明料	175,000	112,000	63,000	500円×224件
2. 再交付料	21,000	18,900	2,100	1050円×18件
3. 書換料	5,000	0	5,000	
3. 受託金収入	1,654,000	1,008,325	645,675	
1. 熊本県受託金	504,000	504,000	0	
2. 家畜改良事業団受託金	400,000	130,000	270,000	
3. 全国肉用牛振興基金協会受託金	750,000	374,325	375,675	
4. 寄付金収入	100,000	0	100,000	
5. 雑収入	111,000	33,727	77,273	
1. 受入利息	1,000	727	273	
2. 雑収入	100,000	33,000	67,000	
3. 頒布品代収入	10,000	0	10,000	
当期収入合計 (A)	32,115,500	28,666,352	3,449,148	
前期繰越収支差額	1,309,444	1,309,444	0	
収入合計 (B)	33,424,944	29,975,796	3,449,148	

(単位：円)

支出の部				
科目 (大、中、小)	予算額	決算額	増減	備考
1. 管理費	3,750,000	2,737,974	1,012,026	
1. 役員費	200,000	48,300	151,700	
2. 旅費交通費	200,000	90,010	109,990	
3. 会議費	1,000,000	660,480	339,520	
4. 消耗品費	100,000	82,075	17,925	
5. 通信運搬費	200,000	213,163	13,163	
6. 印刷費	100,000	10,500	89,500	
7. 賃借料	600,000	556,416	43,584	
8. 光熱水料費	100,000	62,037	37,963	
9. 租税公課	500,000	313,000	187,000	
10. 負担金	450,000	430,000	20,000	
11. 雑費	300,000	271,993	28,007	
2. 事業費	29,520,500	25,394,591	4,125,909	
1. 改良推進費	600,000	212,626	387,374	
2. 業務委託費	4,100,000	4,001,256	98,744	
3. 登録推進奨励金	300,000	64,000	236,000	
4. 普及推進事業	1,000,000	475,535	524,465	
5. 刊行事業	300,000	111,350	188,650	
6. 褒賞事業	200,000	48,384	151,616	
7. 受託事業	1,650,000	1,009,670	640,330	
1. 計画交配推進調査事業	500,000	505,345	5,345	
2. 家畜改良体制整備事業	130,000	130,000	0	
3. 肉用牛生産性向上対策事業	750,000	374,325	375,675	
4. 新酪肉基本計画啓発普及事業	270,000	0	270,000	
8. 支部交付金	21,370,500	19,471,770	1,898,730	
1. 会費交付金	1,470,000	1,362,200	107,800	
2. 登録料交付金	19,782,000	18,032,920	1,749,080	
3. 証明料交付金	118,500	76,650	41,850	
3. 予備費	154,444	0	154,444	
当期支出合計 (C)	33,424,944	28,132,565	5,292,379	
当期収支差額 (A) - (C)	1,309,444	533,787	1,843,231	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	0	1,843,231	1,843,231	

# 正味財産増減計算書

社団法人 日本あか牛登録協会

自：平成18年4月 1日

至：平成19年3月31日

科 目	金 額		
・ 増加原因の部			
1. 事業収入		24,454,700	
登録料	24,323,800		
証明料	130,900		
2. 会費収入		3,169,600	
3. 受託金収入		1,008,325	
4. 雑収入		33,727	
合 計			28,666,352
・ 減少原因の部			
1. 事業費		25,394,591	
2. 管理費		2,737,974	
合 計			28,132,565
当期正味財産増加額			533,787
前期繰越正味財産額			1,309,444
期末正味財産合計額			1,843,231

# 貸借対照表

社団法人 日本あか牛登録協会

平成19年3月31日現在(単位:円)

科 目		金 額	
. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0		
預金	1,753,737		
未収金	6,273,025		
仮払金	117,000		
流動資産合計		8,143,762	
2. 固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			8,143,762
. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,989,935		
預り金	265,000		
仮受金	45,596		
流動負債合計		6,300,531	
2. 固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			6,300,531
. 正味財産の部			
正味財産			1,843,231
当期正味財産増加額			533,787
負債及び正味財産合計			8,143,762

# 財 産 目 録

社団法人 日本あか牛登録協会  
平成19年3月31日現在 (単位:円)

(資産の部)		
項 目	内 訳	金 額
・流動資産		8,143,762
1.現金預金	1,753,737	
(1)現金	0	
(2)普通預金	1,753,737	
2.未収金	6,273,025	
会費未収金	406,400	
登録料未収金	1,322,850	
登記料未収金	3,504,600	
証明料未収金	30,850	
委託事業未収金	1,008,325	
3.仮払金	117,000	
・固定資産		0
その他の固定資産	0	
資産合計		8,143,762

(負債の部)		
項 目	内 訳	金 額
・流動負債		6,300,531
未払金	5,989,935	
会費支部交付金	177,800	
登録料支部交付金	3,562,540	
証明料支部交付金	17,775	
登録事業奨励金	32,000	
業務委託費	2,199,820	
預り金	265,000	
遺伝子型検査料	265,000	
仮受金	45,596	
・固定負債		0
負債合計		6,300,531
正味財産		1,843,231

# 平成 19 年度事業計画書

## 1. 会員数

本年度は、下記の会員確保を目標として諸事業を推進する。

正会員	2,000名
賛助会員	40名

## 2. 登録事業

前年度において登録頭数が減少傾向にあるので、本年度は下記の頭数を目標とし、さらに登録事業の重要性を強調し、資源の維持拡大に努めたい。そのために、登録奨励金制度を継続し、優良牛の多頭化を推進する。

### 目標頭数

育種高等登録	20頭	(	15頭)
高等登録	20頭	(	16頭)
産肉登録	20頭	(	13頭)
繁殖登録	1,000頭	(	975頭)
子牛登記	8,500頭	(	8,138頭)

注：かっこ内は前年度の実績

## 3. 育種改良事業

- (1) 肉用牛広域後代検定推進事業等の種畜選抜事業に対しては、関係機関と連携をとりながら、優良種畜の選抜及び不良形質の淘汰など育種改良事業を推進する。
- (2) 産肉能力検定事業等の推進、現場情報による産肉性の調査、データ分析を通して優良系統を選抜するとともに生産農家への情報の提供に努める。
- (3) 受精卵移植技術、体外受精技術等の新技術に対する取り組みについても継続実施する。
- (4) 超音波検査による優良肉質素材牛の選抜などは継続実施する。
- (5) あか牛集団の血統の偏りを是正するための、計画交配の手法を検討するとともに稀少系統の保存に努める。
- (6) 産肉能力検定の方法ならびに改良目標について検討する。

## 4. 普及指導・組織対策事業

- ( 1 ) あか牛振興対策協議会への協力
- ( 2 ) 種雄牛造成並びに会員相互の連携を深めるため、改良組合の組織化を図る。

## **5 . 刊行事業**

機関誌「あか牛」とその他の改良資料の発行。

## **6 . 表彰事業**

- ( 1 ) 共進会、共励会での優秀牛の表彰
- ( 2 ) 特別功労牛の表彰

## **7 . 受託事業**

- ( 1 ) 計画交配推進調査事業（熊本県）
- ( 2 ) 家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団）
- ( 3 ) 肉用牛生産性向上対策事業（全国肉用牛振興基金協会）

# 平成19年度収支予算書

社団法人 日本あか牛登録協会

収ノ 31,699,731 円  
 支出 31,699,731 円

自：平成19年4月 1日  
 至：平成20年3月31日

(単位：円)

収入の部				
科目 (大、中、小)	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 会費収入	3,264,000	3,472,000	208,000	
1. 会費収入	3,200,000	3,360,000	160,000	1600円×2000名
2. 賛助会費収入	64,000	112,000	48,000	1600円×40名
2. 事業収入	25,448,500	26,778,500	1,330,000	
1. 登録料収入	25,297,500	26,577,500	1,280,000	
1. 育種高等登録料	200,000	300,000	100,000	10000円×20件
2. 高等登録料	160,000	240,000	80,000	8000円×20件
3. 産肉登録料	160,000	160,000	0	8000円×20件
4. 繁殖登録料	6,000,000	6,000,000	0	6000円×1000件
5. 月齢超過料	77,500	77,500	0	1550円×50件
6. 子牛登記料	18,700,000	18,700,000	0	2200円×8500件
7. 交雑登記料	0	1,100,000	1,100,000	
2. 証明料収入	151,000	201,000	50,000	
1. 移動証明料	125,000	175,000	50,000	500円×250件
2. 再交付料	21,000	21,000	0	1050円×20件
3. 書換料	5,000	5,000	0	500円×10件
3. 受託金収入	933,000	1,654,000	721,000	
1. 熊本県受託金	503,000	504,000	1,000	
2. 家畜改良事業団受託金	130,000	400,000	270,000	
3. 全国肉用牛振興基金協会受託金	300,000	750,000	450,000	
4. 寄付金収入	100,000	100,000	0	
5. 雑収入	111,000	111,000	0	
1. 受入利息	1,000	1,000	0	
2. 雑収入	100,000	100,000	0	
3. 頒布品代收収入	10,000	10,000	0	
当期収入合計 (A)	29,856,500	32,115,500	2,259,000	
前期繰越収支差額	1,843,231	1,309,444	533,787	
収入合計 (B)	31,699,731	33,424,944	1,725,213	

(単位：円)

支出の部				
科目 (大、中、小)	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 管理費	3,800,000	3,750,000	50,000	
1. 役員費	200,000	200,000	0	
2. 旅費交通費	200,000	200,000	0	
3. 会議費	1,000,000	1,000,000	0	
4. 消耗品費	100,000	100,000	0	
5. 通信運搬費	250,000	200,000	50,000	
6. 印刷費	100,000	100,000	0	
7. 賃借料	600,000	600,000	0	
8. 光熱水料費	100,000	100,000	0	
9. 租税公課	500,000	500,000	0	
10. 負担金	450,000	450,000	0	
11. 雑費	300,000	300,000	0	
2. 事業費	27,703,500	29,520,500	1,817,000	
1. 改良推進費		600,000	0	
2. 業務委託費	4,100,000	4,100,000	0	
3. 登録推進奨励金	300,000	300,000	0	
4. 普及推進事業	1,000,000	1,000,000	0	
5. 刊行事業	300,000	300,000	0	
6. 褒賞事業	200,000	200,000	0	
7. 受託事業	933,000	1,650,000	717,000	
1. 計画交配推進調査事業	503,000	500,000	3,000	
2. 改良体制整備事業	130,000	130,000	0	
3. 肉用牛効率生産体系普及事業	300,000	750,000	450,000	
4. 新酪肉基本計画啓発普及事業	0	270,000	270,000	
8. 支部交付金	20,270,500	21,370,500	1,100,000	
1. 会費交付金	1,400,000	1,470,000	70,000	
2. 登録料交付金	18,782,000	19,782,000	1,000,000	
3. 証明料交付金	88,500	118,500	30,000	
4. 予備費	196,231	154,444	41,787	
当期支出合計 (C)	31,699,731	33,424,944	1,725,213	
当期収支差額 (A) - (C)	1,843,231	1,309,444	533,787	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	0	0	0	

# 就 任 挨 拶

会 長	滝 本 勇 治	理事	那 須 眞 理 子
副 会 長	穴 見 盛 雄	同	大 野 秀 人
常 務 理 事	中 川 利 美	同	塚 元 秀 典
理 事	安 東 正 史	同	高 野 敏 則
同	加 藤 義 康	監 事	吉 田 敦 司
同	吉 野 栄 二	同	井 上

あか牛 第76号 (平成20年1月発行)

発 行 社 団 法 人 日 本 あ か 牛 登 録 協 会

熊本市桜木6丁目3番54号 畜産会館内

〒861-2101 T E L 096-365-7900

F A X 096-365-7901